

地球温暖化の水産業への影響に迫る【PICES国際シンポジウム】

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-05-31
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 石田, 行正, 伊藤, 進一
	メールアドレス:
URL	所属:
	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2006382

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



地球温暖化の水産業への影響に迫る

水産総合研究センターはPICES（北太平洋の海洋科学に関する機関）や北海道大学など4機関との共催で、2010年4月26～29日に仙台市で国際シンポジウム「気候変化の魚類及び漁業への影響」を開催しました。東北水産研究所は現地実行委員会を組織し、シンポジウムの運営を全面的に支えました。

シンポジウムには世界37ヵ国、335名の研究者が参加し、326課題の研究成果が発表されました。

このシンポジウムの最大の成果は、世界各地で魚類の自然変動や人間の漁獲の影響だけでは説明できない現象が観察されており、気候変化が魚類や漁業に影響していることは否定できないという共通認識を得たことです。



国際シンポジウム要旨集の表紙



(写真上)
ポスターセッションで
活発に議論する世界各
地の研究者達



(写真左)
記者会見場で説明する
中央水産研究所の谷津
明彦資源評価部長

また黒潮などの海流の変化、サケやサンマなどの分布の北上や生産量の変化、メバチやカツオなどの漁場の太平洋西部から東部への移動など、日本の水産業に

も大きく影響するような予測結果も報告されました。

なお、このシンポジウムには、世界銀行(WB)や国際連合食糧農業機関(FAO)などの旅費支援により、発展途上国からも多くの方々が参加されました。また水産経済学者から、2050年までに温暖化の影響で、世界の水産業の経済的な損失は年100億～400億ドル、経常収入の15～50%であり、特に発展途上国での影響が大きいこと、さらにこれらの損失への対応策として4000億～1兆ドルの基金の積み立てが必要であるとの予測が紹介されました。



写真 2つのホールで、世界各地の研究成果を発表

このシンポジウムの成果は、2011年に刊行予定のICES Journal of Marine Scienceの特集号で報告され、2015年のIPCCの第5次評価報告書にも反映される予定です。水産総合研究センターは今後も地球温暖化問題への対応も含めた海洋環境や水産資源のモニタリングなど科学的な貢献を継続します。

シンポジウム開催責任者



石田行正所長

伊藤進一
海洋動態研究室長

コンテンツ ① 地球温暖化の水産業への影響に迫る ② 私は将来、生き残れるの？